

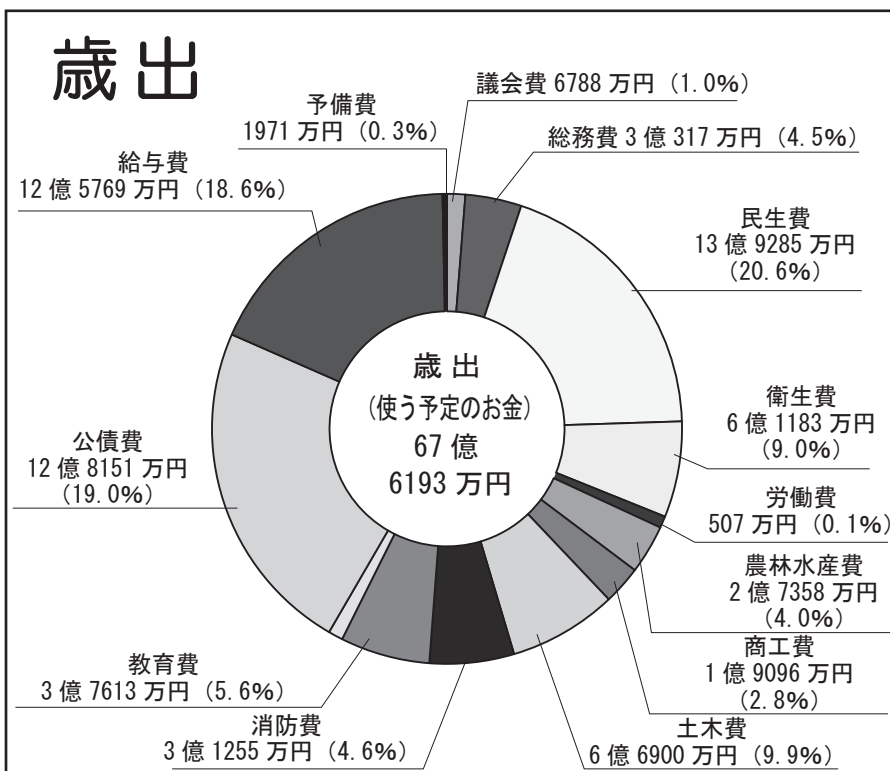
予算編成の考え方

平成26年度当初予算は、町長の改選期であることから義務的及び経常的な経費を柱とした骨格予算(※)として編成しました。

一方行政の継続性、緊急的な課題へ対応するため、厳しい財政状況下であっても町民が安心して暮らすことができるよう、将来を見据えたまちづくりを着実に推進するために、年度当初から執行が必要な事業について予算を計上しました。

特に虹田地区水道水のカルシウムやマグネシウムの含有量が年々上昇している問題で、安心・安全な水道水を供給するため、洞爺湖を水源とする月浦浄水場の水を虹田地区へ引く硬水対策施設整備事業に水道事業会計へ2億円の補助金を計上したほか、虹田大磯漁港プレジャーボート係留施設整備事業、海岸通2期整備事業、母と子の館体育館耐震化事業などを予算に計上しました。

これらにより、一般会計予算額は、67億6192万9千円(前年度当初比1・5%増)、



特別会計、水道事業会計を含めた全会計予算総額は、平成25年度に比べ7億673万3千円、率にして6・7%増額の111億9686万3千円としました。歳入では、自主財源(自主的に収入しうる財源)の根幹をなす町税収入が、震災復興増税に伴う町民税の増額、洞爺湖温泉のホテル開業に伴う宿泊者数の

増加により入湯税の増額を見込んだことから、対前年度1・1%の増額とし、地方交付税については、前年度の交付実績から1・7%の減額を見込みました。歳出では、財政健全化に向けた取り組みにより経常経費の抑制を引き続き行っておりますが、公債費(町の借金)は新たな元金償還の開始から前年度とほぼ

※「骨格予算」とは…?
 首長選挙を控えた自治体が最低限必要な経費を盛り込んで編成する予算のこと。選挙後の補正予算で、首長の政策的な意向を反映させた事業を「肉付け」する、いわゆる「肉付予算」を編成することになります。

同額となったほか、更新時期の到来に伴う機器の購入や施設の維持管理経費、消費税率の引き上げなどにより増額となりました。

平成26年度当初予算の編成においては、収支の均衡が取れているため、財源不足を補填するための基金からの繰入は行っておりませんが、地域経済の動向や町の財政状況を判断する基準は依然として厳しいことから、引き続き財源の確保に努め、経常経費、公債費の抑制に計画的に取り組みながら、効果的な財政運営を目指した予算編成としました。

一般会計

一般会計予算額は、67億6192万9千円で前年度からみて1・5%の増額となりました。歳入における町税、地方譲与税、地方消費税交付金、地方交付税

地方債(借金)の残高

(単位:万円)

| 年度 | 平成22年度 | 平成23年度 | 平成24年度 | 平成25年度(見込) | 平成26年度(見込) |
|-------------|----------|----------|----------|------------|------------|
| 一般会計 | 126億9858 | 116億6553 | 107億5620 | 103億3310 | 95億5186 |
| 公共下水道事業特別会計 | 48億5978 | 45億9895 | 43億3251 | 40億7367 | 38億8412 |
| 簡易水道事業特別会計 | 6億7798 | 6億2876 | 5億8304 | 5億3964 | 5億586 |
| 水道事業会計 | 9億1598 | 8億5795 | 8億3916 | 8億2710 | 8億1534 |
| 合計 | 191億5232 | 177億5119 | 165億1091 | 157億7351 | 147億5718 |

等を合わせた経常一般財源は、45億2113万1千円で前年度からみて0・3%の減額となり、普通交付税の減が主な要因となっております。

基金(※)は、平成25年度に国から交付され財政調整基金に積み立てた元金臨時交付金4800万5千円、公共施設等整備基金から2億6000万円などを取り崩し、繰入を行いました。歳入における人件費、扶助費、